

吟道月報

NO.7

48.2.5
碩心会

碩心会の歩み (三十九年)

三十九年新春、長靴姿の好青年が玄関に立って
 案内を乞う。ヤ塚の鈴木吉夫さんで、「詩吟を
 習いたいのぞ才が」との語、早速二月から入会
 ・その美声と熱心さは殊の外であった。三十九
 年七月には、竹野さんが下条さんに誘われ入
 会した。六月二十一日逕子信爾ホールで逕子吟
 道連盟の発表会を開く。碩心二十名吟友十七名
 に誦舞三題を合め一応形の出来た吟道大会とな
 った。招待者は岳風流横須賀方面の諸先生十四
 名であった。

五月十日の第十二回県大会には、小池正枝、
 加藤圭一、小峰順泉、下条領山の四名出吟、十
 月十一日の第十三回大会には(三十五団体、一
 四三〇名)鈴木吉夫、中村幸太郎の独吟と誦舞
 「大楠公」の小林紫舟先生の舞を根岸基山、高
 橋碩山が連吟した。十一月一日逕子市民体育館

落成記念と文化祭が併行して行われ、碩心より
 誦舞二題、吟友より書道吟が発表された。

この四月から会計を根岸基山に委嘱した。届
 内教場が充足したのは三十九年二月で、こゝに
 碩心会発展の第一歩を印し、感深いものがある。

県本部関係

二月四日の県本部主催第一回吟道講習会には
 参加人員約二〇〇名、渡辺先生、可児先生の名
 詞による講習に場内寂し、又笑が溢れ盛会
 裡に終了した。

碩心会本部より

左記、新支部が発足しました。

◎ 紫舟支部 一月十九日より毎金旺一口、三口

〃 〃 〃 〃 指導者三井会長

支部長 小林紫舟 (逕子支部より転籍)

会 員 田中章泉 (〃)

〃 藤田のり子 (嵯山支部より転籍)

